

## 第4回推進会議結果のまとめ

12月16日（月）に行われた第4回南三陸町復興計画推進会議のグループ討議結果をご報告します。今回は、グループB、グループA、グループCの順に発表がありました。

### 1. 各グループの討議結果

#### 1) グループBの発表内容（要旨）

##### 1. 南三陸キッズニア

- ・ 南三陸の子供たちにもっと職業観をもってほしい。
- ・ 小学生に魅力は何ですかと聞くと海と答えが返ってくるが、実際に海で漁をした訳でもなく、漁師さんを親に持つ子も限られ、実体験はほとんどない。
- ・ キッズニアと言うのは東京にあり、消防士のかっこうをしたり、いろんな疑似体験ができる場所だが、南三陸の資源を生かした体験を行ったらどうかという意見があった。
- ・ 入谷地区の山、里、ほかの地区の海の資源を活かした体験を子供時代に経験すると、仮に外に出ても南三陸でいい体験ができると戻ってくるし、交流にもつながる。
- ・ そこで、子供の体験ができる場面をつくろうという意見があった。

##### 2. 南三陸で健康づくり（防潮堤などでのグランドゴルフ）

- ・ 南三陸では、高く、幅も大きい堤防が出来る。これを逆手にとり、堤防斜面を使ったグランドゴルフ場を作り、ゴルフをしてもらうとともに再生された町を見て頂く。
- ・ 大きなホテルの近くで適した場所がありそうなので、グランドゴルフ場で健康づくりをして、シーフードバーベキューを食べ、ホテルに泊まってもらうことを売り出す。

##### 3. ツールド南三陸

- ・ 町では、前に地区ごとの運動会などのイベントが盛んで、地域のつながり、いろんな交わりができたということでもた復活させていきたい。
- ・ マラソンやツールド〇〇とかの自転車レースのイベントを地域イベントとしてやりながら、沿道で地元の食などを提供して地域おこしをする例がある。
- ・ 田東山を自転車で登るイベントがあるが、加えて三輪車で登るイベントなども可能性がある。

##### 4. お客が作る料理コンテスト

- ・ 南三陸の海の物、山の物、四季折々の食材を使ったコンテストを企画したい。
- ・ おらが町の名物、A級グルメ、B級グルメなどあるが、町内の食材を提供して、町外の人に料理しに来てもらう、そういうコンテストをして町に来てもらう。
- ・ 町外の人が作った物を町内の方が食してこれはおいしいとか、これは是非南三陸の名物にしたいとか、そういうアイディアをもらうような企画も良いと思う。
- ・ 町に良い食材があるので、こういうコンテストなり、イベントが企画出来る。
- ・ 町の名物のタコと隣の登米市とコラボレーションをして、食材コンテスト、姉妹都市と連携した名物コラボ食材コンテストもできる。

○魅力の活用シート（まとめ）

グループ名：B

魅力	事業名 (愛称)	どのようにする（活用の方法）	皆さんが自ら行うこと	町や外の力を借りたいこと
海・山の魅力	南三陸 キッザニア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供達が漁業など職業体験できる場所が少ないので増やす</li> <li>・小学校間の親子体験交流を行い海・山の南三陸らしさを味わう（入谷地区～海岸地区）</li> </ul>	職業体験への協力	学校間、地区間の交流窓口
(防潮堤を逆手に)	南三陸で健康づくり（海の隣でグランドゴルフ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グランドゴルフ場を宿泊施設のそばにつくり、ホテルと連携してシーフードバーベキューを行う。</li> <li>・防潮堤の斜面を利用して、海の見える場所で行う</li> <li>・仮設住宅の人と町外の人を呼び、グランドゴルフ大会を行う。（目標ができれば皆が元気に）</li> </ul>	大会の企画・運営	グランドゴルフができる場所の確保
海・山の地形	ツールド南三陸（サイクル・三輪車・マラソン）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内の各地区対抗の運動会を復活させる</li> <li>・全国から人が集まる田東山のマウンテンバイク大会に加え、「三輪車で登る大会」を行う。</li> <li>・町内の復興を感じるため、町内をぐるぐる回る自転車のロードレースやマラソン大会を行う。</li> <li>・コース上にモアイ像を置く</li> </ul>	企画・運営支援（田東山のマウンテンバイク大会は自転車組合が運営）	各地区への呼びかけ窓口
地場食材	町外の人を作る料理コンテスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四季折々で食材を使った祭りを開催する</li> <li>・町内外の人が参加する料理コンテストを開催する。</li> <li>・南三陸の食材を使って町外の人に料理をしてもらうコンテストを開催する。</li> <li>・町の名物と（姉妹都市）など町外の名物を組み合わせた食のイベントをおこなう。</li> </ul>	企画・運営	姉妹都市などへの呼び掛ける際の窓口

注) 青字はまとめていただいた「ふせん」に発表内容をもとに事務局で加筆しました。

## 2) グループAの発表内容(要旨)

### 1. 南三陸椿ものがたり

- ・この町にある椿文化、「昔は種を拾いその油を取って頭に付けた」と言うお母さん達の文化を再確認しながら、塩害に強い椿の植生を防災に生かすまちづくりをしたい。
- ・今後、防潮林や公園作りでたくさん苗木が必要になってくるが、その苗木を買わずに、自分たちで今の時間を活かして育て、町に苗木が必要な時期に提供する。
- ・椿の避難路を山の方から降ろしていき、その方向に逃げれば観光の人達も助かる。
- ・高台に大きく団地を造成して山を頂くので、低地部に森を還すことも目的にしたい。
- ・私たちはまず種を集める。子供でも出来るので、子供達の役割として種を集める。
- ・仮設でお母さん達にポット苗で育ててもらおう。その時期以外はグッズ制作をして貰う。
- ・里親制度みたいに町の椿を他の町の人たちにも育ててもらい交流が生まれるとよい
- ・町にはPRと苗作り用に低地部の土地を利用させて頂きたい。
- ・子供達の生活の意味が深まるので、子供達との連携、学校との連携を図る。
- ・他の被災地で椿を中心に行っている町、たとえば伊豆大島と交流し広げていく。

### 2. 地名で伝える防災事業

- ・昔、「沖の須賀」と呼ばれていた浜や海だったところを埋め立てた反省がある。
- ・今回、10m盛土をして防潮堤も作る、けれどもここまでの海だったという記憶を残すという事が未来に危機意識を高めて行くことになる。
- ・地名に刻まれた津波の警告を意識的に見える形にして伝え、防災教育に生かす。(そういう歴史があったよと、お年寄りの方々から子供たちにお伝えする。)
- ・地名だけで表す防災マップみたいなものを1つ皆で作って語り継ぐ。
- ・町にはPR、配布、資料作成協力を頂きたいし、子供達が参加して自分達の町を知る。

### 3. 縁側で笑顔のお茶っこ

- ・今後心配されている災害公営住宅のコミュニティ再生における場の手助けとなるようお茶っこ文化を意識的に使う。
- ・お茶っこ文化はお年寄りの見守りにもなる。(今日あの人来てない、どうしたんだべね)
- ・事務局があげた‘たらすもづ’は、商品化すると本来の良さが無くなるので、あえて商品化しない。お茶っこ事業の中で助っ人として取り入れる。
- ・行政の方にお茶っこのみに参加していただき、まちづくりの情報を提供してもらい、時間を共有する。

### 4. 鮭的人財育成事業

- ・町を離れてもまた戻って来たくなるような原体験の場を残しながら復興したい。
- ・ネイチャーセンター(海の学校)みたいな海の事、森の事、里の事がいろいろ分かる拠点があって、そこで原体験の場を意識的に活用する。
- ・人間がたくさん増えて行けば人口流出も怖くない、という取り組みをしたい。

### 5. 秘伝の果報団子事業

- ・入谷・志津川では11月23日にお団子を作り、中に萩の枝とか柳の枝とかを入れる。
- ・何個かに1個入っていて、それを食べてそこに入っているとおじいちゃんに100円おこずかいをもらえる。そういう町に古く残っている文化を町づくりに楽しみのような事業として打ち出すというのもいい。

○魅力の活用シート（まとめ）

グループ名：A

魅力	事業名 (愛称)	どのようにする（活用の方法）	皆さんが自ら行う こと	町や外の力を 借りたいこと
椿	南三陸椿ものがたり  (ご縁椿はな咲くまちづくり事業) <b>(椿の避難路事業)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>塩害に強い特性を活かして、防潮林、避難路に椿を植える。</li> <li>沿岸部に椿を植えて、高台団地を作るためになくなった緑の分を<b>自然</b>に還す。</li> <li>椿を縁にして他町と交流する。 (町民有志で進行中、これからは長崎、京都、大分、普賢岳などと協働する)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>種集め</li> <li>ポット苗作り</li> <li>グッズ制作</li> <li>椿基金</li> <li>維持・管理</li> <li>特産づくり</li> <li>苗畑づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PR</li> <li>苗づくりの土地の提供</li> <li>学校との連携</li> <li>他町との交流</li> <li>苗づくりの協力依頼</li> </ul>
地名	地名で伝える防災事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>地名に刻まれた津波への警告を意識的に見える形にして伝え、防災教育に活かす。 (先人が残した地名が埋もれないように積極的に発信する。)</li> <li><b>地名で表す防災マップを作る</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもと高齢者で話し合う場をつくる</li> <li>紙芝居を作る</li> <li>防災マップ作り</li> <li>語り部活動</li> <li>看板作り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PR</li> <li>作成協力</li> <li>配布協力</li> <li>学校との連携</li> </ul>
縁側	えんがわで笑顔のお茶っこ	<ul style="list-style-type: none"> <li>お茶っこ文化を活かしてコミュニティ再生を手助けする。</li> <li>仮設集会所で行政と町民のお茶っこ会を継続的におこなひ、つなぐ場をつくる。</li> <li>たらすもづをここで出す。</li> <li>お年寄りの見守りに役立てる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくりお茶会の実施</li> <li>たらすもづサミットの開催</li> <li>支援職員さんの故郷と文化交流</li> <li>おらいのつけものサミット</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PR</li> <li>行政からの可能性に関する情報提供</li> </ul>
鮭	鮭的人材育成事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>町を離れてもまた戻ってくるような人材を育てる。</li> <li>海の学校づくり。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネイチャーセンターを活用して原体験の場づくり</li> <li>子供たちに伝える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネイチャーセンターの整備</li> <li>PR</li> <li>学校との連携</li> </ul>
果報団子	秘伝の果報だんご事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>たらすもづ、秘伝の果報団子、海の体験など、ここにしかないものを作る。 <b>(規格品になることを避けるため、たらすもづはあえて商品化しない)</b></li> </ul>		

注) 青字はまとめていただいた「ふせん」に発表内容をもとに事務局で加筆しました。

### 3) グループCの発表内容(要旨)

#### 1. グランドゴルフ

- ・津波被害がなかった人も仮設に入っている高齢の多くの人にもグランドゴルフの愛好者だったが、今は道具を持っている一部の方が上山緑地公園でしかできない状況である。
- ・一方、南方の仮設住宅にはゴルフ場が作られて楽しんでいる。町に住んでいる愛好者はストレスがたまり、これからやりたいと思っている中年の方々も機会がない。
- ・町にグランドゴルフ場が1ヶ所でもあれば、そこを拠点に交流も深まる。
- ・町には、場所を提供していただきたい。グランドゴルフ協会の志津川、大森、中瀬町の各支部にお願いすれば、彼らは喜んで管理運営をやってくれる。
- ・場所が1つ設けられると、そこに集まって来る人達が自然に自分達の得意な料理を持ってきて、そこでお茶っこ飲みが出来る。
- ・仮設住宅の集会所でお茶っこ飲みする人達はいっぱいいるがいつも同じメンバーである。グランドゴルフを通し、町外の人も含めいろいろな交流が生まれる。

#### 2. 運動イベントの開催

- ・町主催の運動会、野球大会、バレー大会などいっぱいあったが今は行政区がばらばらになりやらない。行政区単位でなく仮設住宅対抗でもいいので実施すべきである。
- ・PTAや地区対抗でもやったビニールバレー、ラージボール卓球が取り組みやすい。
- ・スポーツ(健康)麻雀も良い。囲碁とか将棋も良いが、麻雀は4人集まって、それぞれが自分の頭の運動、指先の運動ができるので、これを復活させると面白い。
- ・麻雀や各種のスポーツを指導したり普及させていく人が必要だという事で、専門家を呼んで講習会をしたり、研修会をしながらやっていくのがいい。

#### 3. 漁業体験

- ・今ボランティアで海の作業をさせてもらっている人がいるが、これを1つの事業として企業研修、新人研修ができるようにするとよい。人を呼んで漁業に携わってもらう。
- ・海の生き物はこうできていて養殖はこういう手間がかかる、という事を一緒にやることからはじめ、発展させる。今からプログラムを作ってやって行く。
- ・実際にプログラムを作る人や窓口が必要になるので、観光協会や漁協青年部、歌津の海友会とうまくタイアップしながらやって行く。
- ・漁業体験、農業体験も含めて、全町で出来るようにするにはコーディネーターが必要。

#### 4. 南三陸フィールドワーク

- ・間もなく防災庁舎が無くなるので、震災を伝える物がちょっとかけてくる。
- ・「実際に津波がここまで来た、昔はここまで海だった」という境の所をバスで巡ったり、現地で下りてそこで暮らしている人達の話聞く。(フィールドワーク)
- ・佐野前のコンビニも地区外の人達がなかなか来ないが、実際に行ってみると、話好きのおばちゃん、おんちゃん達が昔々ここはこうだったという話を教えてくれる。
- ・そういう人達との交流も大切で、歌津の端、倉内から宮方までの東浜街道は今は国道45号線の迂回路となっているが、昔はそこが本道でそこまで津波は来なかった。
- ・そのエリアを歩くことによって、我々は歴史がわかる。実際そこについて現地の人に案内してもらえれば、学べるし体感も出来る。
- ・(宮原先生のアドバイス) その拠点、拠点に小さいモアイ像を置いて、モアイの何番から何番へとスタンプラリーも出来る。住民の皆さんと相談しながらやっていきたい。

○魅力の活用シート（まとめ）

グループ名：C

魅力	事業名 (愛称)	どのようにする（活用の方法）	皆さんが自ら行うこと	町や外の力を借りたいこと
昔盛んだったゴルフ	グランドゴルフ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の場を作る大会を開催して、人々のつながりを回復する。</li> <li>・外で活動する機会を作る。</li> <li>・用具の貸し出しをしてだれでも参加できるようにする。</li> <li>・仮設住宅にひとつ作っても良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コマースヤル（PR）</li> <li>・口コミで広げる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グランドゴルフができる場所を作ってもらおう。（50m×30m）</li> <li>・管理をグランドゴルフ協会にお願いする</li> </ul>
昔盛んだったスポーツ	(町主催) 運動イベント開催 町で遊ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・練習が必要で目標となるイベントにする。</li> <li>・ビニールバレー（ソフト）</li> <li>・卓球</li> <li>・グランドゴルフなど</li> <li>・囲碁やスポーツマーじゃんなど（手を動かすもの）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮設住宅ごとにルール等を教える人を配置する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導する人を外部から招き講習会をする。 ↓</li> <li>・遊ぶ人を養成する</li> </ul>
海の資源	志津川湾を巡るツアー！ メカブ漁の体験 ぶなの植林 カキやホタテのいかだ見学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今のボランティアや新人研修を続けてもらう</li> <li>・宿泊施設の準備が課題</li> <li>・食事もつけ足してみる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信が重要</li> <li>・プログラム構築（難しいか）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協に受け入れてもらう</li> <li>・漁協や海友会（歌津漁師さんOB会）へのコーディネート、窓口を頼みたい</li> </ul>
話好きの人々 東浜街道などの歴史	南三陸フィールドワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地形、暮らし、歴史等を現地の人案内する。</li> <li>・地元の人との現地体験を提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点にマークをつける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな拠点は作らないが拠点は欲しい</li> </ul>

注) 青字はまとめていただいた「ふせん」に発表内容をもとに事務局で加筆しました。

## 2. 学識者委員・有識者委員の講評ととりまとめ

### 1) 稲葉先生

- ・グループごとに独創的な提案で面白く聞かせていただいた。
- ・「たらすもづをあえて商品化しない(グループA)」という発表があったが、ここ(南三陸町)にしかないものを置いておくと人が来るきっかけになるので良い考えと思う。
- ・これからそれぞれの事業を実現していくのは大変だが、できるだけお手伝いをしていきたい。

### 2) 宮原委員長

- ・自分たちでやることと町にやってもらいたいことが整理できてきてアイデアが具体になってきた。町は本日出されたアイデアについて検討をお願いします。
- ・グループBは、堤防など動かないものを逆手にとっていろいろやろうという発想が良い。地場の食材で町外の人にもてなしてもらおうというのも逆転の発想で面白い。
- ・グループAの「椿ものがたり」は、いろいろな人が関われるので良い提案と思う。なお、椿の苗木を育てる人は「椿守」に任命するとよいし、大量に椿ができれば「椿(シャンプー)」の化粧品会社とタイアップしても良い。
- ・グループCは「体を動かす、町民同士が交流する」という提案だった。私の地元の高島町では10月に100人集まるグランドゴルフ大会があり、子供たちからおばあちゃんまで参加し商品も出るのでたいへん盛り上がっている。日本中でグランドゴルフをやっているので全国大会もできる。町には、場所の確保が可能か検討をお願いしたい。
- ・グループCの提案のフィールドワークをする際に、学びの場に小さなモアイ像を置いておくとそれとわかるし、お店にモアイ像があると話を聞ける店ということになる。
- ・まとめると、「体を動かす、交流する、一過性で終わらせない」ということがキーワードで、次回、「本当に誰がやるのか」を詰めるとともに、続ける仕組みを考えていきたいと思います。

## 3. 町からのコメント(企画課佐藤補佐)

- ・Aグループであった山を削る分を還す、という発想は同感である。
- ・本日もいただいたいろいろなアイデアを特区に載せていけるように検討したい。
- ・町は職員が足りないので、皆さん自身でやれることはできるだけやっていただきたい。
- ・グランドゴルフについては補助が出せると思うし、町内の場所を使えるように交渉したい。
- ・本日は、観光交流がテーマだったが、子育て、高台移転、まちづくりに関することなど、ご意見があれば遠慮なく町にメールをしてほしい。